

2014 年 8 月 12 日

中唐文学会のお知らせ（第2号） 2014年度

残暑厳しき折、会員の皆様にはお元気でお過ごしでしょうか。第 25 回中唐文学会大会を以下のように開催いたします。ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。

大会は 10 月 10 日（金）の 13 時 30 分より、龍谷大学大宮キャンパスで行います。大宮キャンパスは JR 京都駅から徒歩約 10 分のところにあり、懇親会会場も JR 京都駅のすぐそばです。

会 場 龍谷大学大宮キャンパス 西覺大会議室（2階）

（京都市下京区七条通大宮東入大工町 125-1 TEL：075-343-3311）

日 程 10月10日（金）

13 時 00 分 受付開始

13 時 30 分 研究発表①

「同志を求める文学——貞元前期の韓愈・孟郊・李観の贈答詩を中心に——」

発表者：丸井 憲（早稲田大学非常勤講師）

司 会：齋藤 茂（東山之会会員）

14 時 30 分 研究発表②

「張祜から劉禹錫への二詩」

発表者：白石尚史（長野県小諸高等学校）

司 会：丸山 茂（日本大学）

15 時 30 分 講演

「盛唐英霊交往之遺蹤——劉復墓誌考——」 *中国語〔通訳なし〕

発表者：査 屏球（復旦大学・九州大学招聘外国人教師）

司 会：丸山 茂（日本大学）

17 時 00 分 総会

懇親会 18 時 00 分～20 時 00 分

於 アパホテル京都駅前

（京都市下京区西洞院通塩小路下ル南不動堂町 806 TEL：075-365-4111）

※懇親会の会費は 5200 円を予定しております。当日の飛び入り参加も歓迎いたします。

会場へのアクセス

大会会場

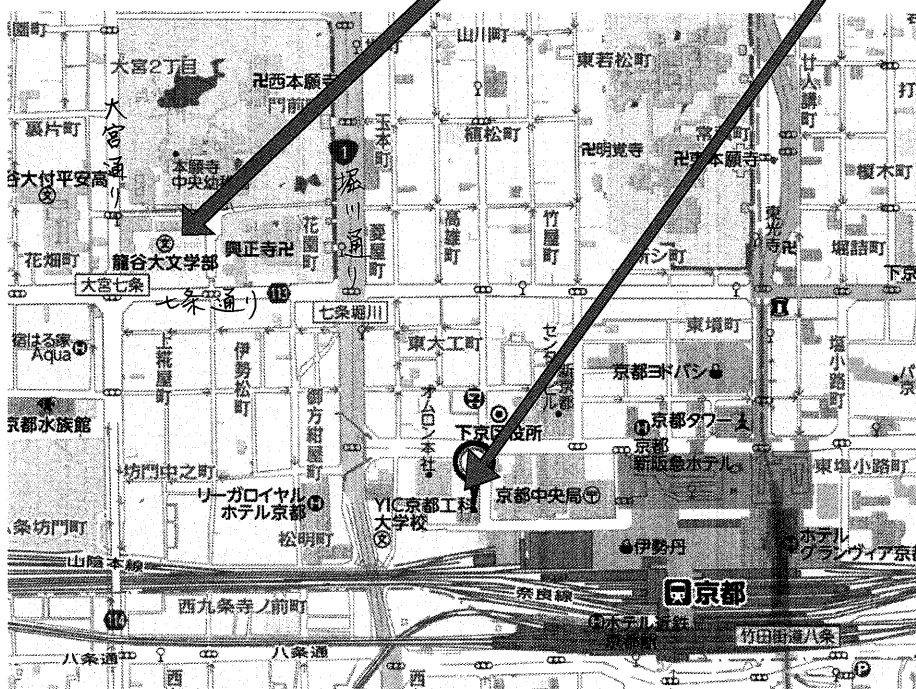
懇親会会場

【アパホテル京都駅前】

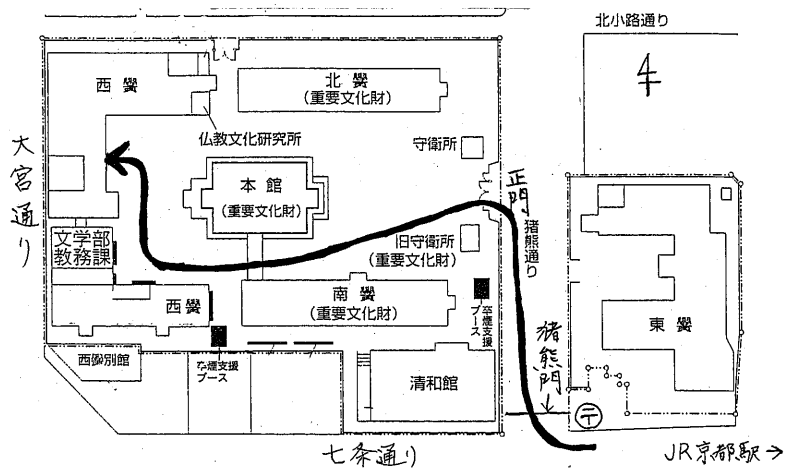
JR「京都」駅中央口より西へ徒歩すぐ
ビッグカメラのはす向かい

【龍谷大学大宮キャンパス】

- ◆JR「京都」駅から徒歩約10分
市バス約3分
- ◆阪急「大宮」駅から市バス約5分
「七条大宮・京都水族館前」下車1分
- ◆京阪「七条」駅から徒歩約20分



【大宮キャンパス内】



七条通りの本派本願寺郵便局横の猪熊門をくぐり、
左手の正門に入って本館裏の西翼へお回り下さい。

お願いとお知らせ

※ 学会出張の手続き上、必要な書類がありましたら、中木（nakakiai@let.ryukoku.ac.jp）までお知らせください。

※ 本会は、会費の納付で会員資格継続の作業を進めます。同封した振込用紙に金額をご記入の上、お振り込み下さいますようお願いいたします。

【振込先】 口座番号 00100-8-631654
口座名称 中唐文学会

正会員 3000 円、準会員（会報の不要な方）1000 円

準備の都合上、会費振込（あわせて大会・懇親会の出欠確認）は、
9月19日（金）までにお願ひします。

同志を求める文学——貞元前期の韓愈・孟郊・李観の贈答詩を中心に——

丸井 憲（早稲田大学非常勤講師）

大暦期の詩壇の主流を占めていた、いわゆる十才子らの離別詩や贈答詩は、常套的な措辞と近体的な様式とを備えたものが多かった。ところが貞元期に入ると、韓愈・李観・孟郊といった詩人たちが、記名性に富む新鮮な内容と、古体詩という自在な様式とを用いて、その交遊の有り様を活写する文学を作り始めた。これらの詩は、当時の詩人たちの交遊の記録として一定の資料価値を有すると同時に、盛唐から中唐へと変ずる過渡期に当たるため、その体裁や様式においても微細な変化が見て取られる。たとえば韓愈の当時の贈答詩には、同志的結合を追求する姿勢が顕著に見られるが、その媒体として採用された五言の古体詩は、漢魏以来の「比興」（寓喩）の伝統を踏まえつつも、「賦体」（直叙）の要素を多分に取り入れたものとなっている。その淵源となったのは、王維や十才子らの近体的な文学の陰に隠れて、当時まだ十分には注目されていなかったであろう杜甫・元結・孟雲卿・韋応物らの五言古詩だと想像されるが、それらの作品に影響された孟郊が、独創的かつ奔放な五古を駆使し始め、それに韓愈が同調したため、「同志を求める文学」の一様式として新たな発展を遂げることになった。その様式は次第に長篇化し、さらには七言古詩の新たな進路を切り開く端緒ともなったと考えられる。

張祜から劉禹錫への二詩

白石尚史（長野県小諸高等学校）

張祜（貞元8年～大中8年）（792～853、62歳没）は中晩唐を生きた著名詩人である。しかしながら清代の『全唐詩』の時代には良本の発見がなく、『全唐詩外編』・『全唐詩補編』によってその後の補充がなされ、また敦煌遺書からの数首もあり、嚴寿澄氏の『張祜詩集』（江西人民出版社・一九八三年）は、宋蜀刻本の『張承吉文集』を底本としてその他の幾種かの張祜詩集を比較しながら作られたが、注釈はなかった。その後、『張祜詩集校注』（尹占華・甘肅文化出版社・簡体字・一九九七年）が出され、これに大幅な修正を加えた『張祜詩集校注』（巴蜀書社・尹占華・繁体字・二〇〇七年）が、「詩賦研究叢書」のシリーズとして改めて出版された。底本は宋蜀刻本の『張承吉文集』で、収録詩は五百十六首、断句六、聯句一である。

このように二十世紀になって聞一多を始めとする、学者の努力の成果として、『全唐詩』以来の増補がなされ、漸く「校注」も出版されているが、張祜の研究は日本ではほとんど進んでいない状況のようである。

張祜は、白居易、元愼、劉禹錫、令狐楚、杜牧、李紳、許渾とも交流があった詩人であり、大和五年（831）には令狐楚により表薦されるが、果たせず、京師を去ることもあった。科挙に登第できず、処士として過ごし、中国各地を歴遊するも、晩年は潤州の丹陽に寓居したりして活動したのであった。

その様にアウトサイダー的な面がある反面、比較的平易な作品は多くの読者、愛唱者を得た可能性を感じさせる。張祜の詩には、小宮体詩や、山水詩、樂府などがあり、『唐詩選』に四首、『三体詩』に四首、『唐詩三百首』に五首、収録されている。

従来、張祜と劉禹錫の関係はあまり論じられていないようである。今回の発表では、「聴

劉端公田家歌」「寓懷寄蘇州劉郎中」という張祜から劉禹錫への二詩を中心にして劉禹錫との関係を考えたいと思っています。

講演要旨

盛唐英靈交往之遺蹤——劉復墓誌考——

査 屏球（復旦大学・九州大学招聘外国人教師）

刘复是中唐一位很有影响的诗人，但由于文集散佚，留存作品不多，唐之后少有人关注，对其生平情况也不甚了解。新近公布的《刘复墓志》，主体部分为刘复自撰，不仅完整介绍了刘复生平，而且述及他在天宝年间与王昌龄、李白交往之事，据此我们可具体认识盛唐时代学子的修业方式，对刘复现存作品内容及真伪问题作深入的解析；并可对天宝年间以江宁为中心的江南诗坛有更真切的了解。这对于解决天宝文学中几个悬案（如王昌龄被贬龙标时间、王昌龄在江宁主持雅集及授学之事）也提供了重要佐证，其史料价值值得关注。

問い合わせ先

各お問い合わせは、以下までお願いします。

〒 612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67
龍谷大学文学部 中木研究室気付 中唐文学会事務局

zhongtang2014@mouse.let.ryukoku.ac.jp

大会・懇親会・庶務担当

中 木 愛

(nakakiai@let.ryukoku.ac.jp)

会報担当

二宮 美那子

会計担当

好 川 聡

公式ブログ・ML 担当

中 木 愛